

CCBJニュースレター 第106号

2023年4月27日

会員の皆様、

CCBJ主催で4月に開催された2つのイベントにお集まりくださいました皆様
に感謝申し上げます。1つ目はCCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤー
の授与式で、今回はブラジルの漫画市場と児童教育への功績により漫画家マ
ウリシオ・デ・ソウザ氏が受賞されました。

2つ目は味の素株式会社元社長の西井孝明氏の講演会で、当日はブラジルと
日本におけるビジネスについてお話いただきました。西井氏はブラジル市場
における味の素の事業拡大に多大な貢献をされました。

ブラジルと日本の関係は文化の分野でも注目されています。在日ブラジル商
工会議所は7月15日、16日にブラジルフェスティバルを開催します。フェス
ティバルを成功に導くためにも、企業や大勢の皆様のお力添えを賜りますよ
うお願い申し上げます。

今月のニュースレターには、弁護士でCCBJ会員でもある二宮正人教授に
キョウダイ・レミッタンスが行ったインタビューが掲載されています。二宮
氏は日本政府から瑞宝中綬章を受賞されました。日伯関係にとって重要な役
割を担う二宮氏に相応しい栄えある受賞です。おめでとうございます。

ブラジル輸出投資振興局 (Apex-Brasil) が発表したアジア最大級の食品・飲
料展示会FOODEX JAPAN2023の取引に関する報告や、廃棄物やCO2排出
量削減に向けた産業の取り組み、ブラジル銀行が発表した経済レポートに関
する記事も掲載されていますので、ぜひご覧ください。

それではどうぞよろしく申し上げます。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(インタビュー)

二宮正人教授が瑞宝中綬章を受章

法学博士で弁護士の二宮正人教授に、日本政府から瑞宝中綬章が授与されました。コロナ禍の影響で3年遅れの開催となった授賞式は、今年2月8日に帝国ホテルで行われました。当日は日本の政界、学界、財界の著名人、外交官、日系人社会代表者ら350名を超える出席者が集まりました。

1948年11月17日に長野県上田市で生まれた二宮氏は、5歳の時に家族とともにブラジルに渡りました。ブラジルで教育を受け、1971年にサンパウロ大学法学部を卒業。卒業後は奨学金を得て東京大学に留学し、10年かけて修士号(1976年)と博士号(1981年)を取得しました。

二宮氏は3月23日にキョウダイ・レミッタンスが行ったインタビュー取材に応じ、今回の受賞について次のように語りました。

キョウダイ：勲章受賞者はどのように選ばれるのでしょうか？

二宮氏：この賞の受賞に相応しい方たちは大勢いますが、日本政府がその人たちの業績をどう評価するかがポイントになります。日本には内閣府賞勲局という部局があり、そこで投票が行われます。各候補者の活躍ぶりを近くで見ている大使館や領事館は、あくまでも推薦者としての立場にあり、選考には介入していません。

通常は政府関係者や著名人が上位の叙勲を受けることが多く、瑞宝大綬章は、東京大学総長や駐米日本大使などに贈られています。日系人として最高位の勲章を受賞したのは連邦高等司法裁判所元判事の上田正美氏で、瑞宝重光章を受賞されています。それ相応の功績がなければ叙勲対象にはならないということです。

キョウダイ：授賞式には、日本の学会関係者、外交官、政治家、実業家、在日ブラジル人コミュニティの代表者も出席していました。

二宮氏：林芳正外務大臣、小池百合子東京都知事、小淵優子衆議院議員をはじめ、ブラジル側からは駐日ブラジル大使館関係者やギリエルメ・パトリオタ在東京ブラジル総領事、在日ブラジル商工会議所の村永裕二氏、斉藤俊男氏、茂木真二氏、武蔵大学のアンジェロ・イシ教授が出席されました。

キョウダイ：ブラジル政府からもリオ・ブランコ勲章（コメンダドール位）を受賞されましたね。おめでとうございます。

二宮氏：今回で3度目ですが、全て等級も受賞理由も異なります。最初は1989年で、通訳としての業績に対してリオ・ブランコ勲章カヴァレイロ位を授与されました。リオ・ブランコ勲章には5つの等級があり、一番低い等級がカヴァレイロ位です。1999年には大学教授としての業績によりオフィシアル位をいただき、それから20年以上の時を経てCIATEの会長としてコメンダドール位を受賞しました。日系人コミュニティでは大きな反響がありました。通常この勲章は1回しかもらえないものですが、私の場合は受賞理由はそれぞれ異なるとはいえ、今回で3度目の受賞となりました。

キョウダイ：二宮先生は新世代の弁護士を育てるという取り組みも進められています。

二宮氏：そうですね。ただ特別なことをしているわけではなく、学びの源泉を作るというだけです。例えば、私は覚えていなかったのですが、私の教え子だったというブラジル大使館の外交官にお礼を言われたこともありました。これはとても嬉しいことでした。こうしたケースは、少なくありません。教師が全ての教え子のことを覚えているというのは大変ですが、生徒たちは教師のことを覚えていてくれます。そして、そうした教え子たちから先生のおかげで人生が変わったと言われることは、私にとってこの上ない喜びなのです。

（経済）

FOODEX JAPANのブラジルパビリオンで1700億ドル以上の取引

3月10日に閉幕した日本最大の食品・飲料展示会FOODEX JAPAN2023では、ブラジル輸出投資振興局（Apex-Brasil）が設置したブラジルパビリオンにブラジル企業16社が出店しました。展示会終了後の発表によると、顧客との接点創出が747件（そのうち新規は588件）、会期中の取引額は1764万ドル、終了後12ヶ月間の取引見込み額は1億500万ドル超という結果となりました。

詳細はこちら : https://apexbrasil.com.br/br/pt/conteudo/noticias/brasil-leva-26-empresas-a-evento-de-bebidas-e-alimentos-no-japao.html#msdyntrid=prQSgjjpd6GdpV1vvyXgQWExrAMF8X06I0IUaQ_3Y4

出所 : Apex-Brasil

廃棄物の再利用

国連によると、世界では毎年約112億トンの固形廃棄物が回収され、9億3100万トンの食品が破棄されています。一方で、生産過程で出る廃棄物の減量化や再利用により、温室効果ガスの排出やゴミの量の抑制に成功している産業分野もあります。ブラジル全国工業連盟 (CNI) によると、廃棄物の再利用が進んでいる主な産業として、紙・パルプ産業や砂糖エネルギー産業、食肉産業などが挙げられます。

詳細はこちら : <https://noticias.portaldaindustria.com.br/noticias/sustentabilidade/lixo-zero-conheca-3-setores-da-industria-que-reaproveitam-ao-maximo-seus-residuos/>

出所: CNI

エネルギー効率改善でコストとCO2削減へ

ブラジルで進められている企業の省エネ推進プログラム (Programa Aliança) は、エネルギー消費を削減する生産工程の導入により産業の脱炭素化を推進することを目的としたプログラムで、2023年にその第2段階が始まりました。第2段階では、製造過程でエネルギーを大量に使用する24の産業施設を対象に、年間で温室効果ガス4万トン減と9000万レアルのコスト削減を目指しています。

詳細はこちら：<https://noticias.portaldaindustria.com.br/noticias/sustentabilidade/industrias-buscam-melhorar-eficiencia-energetica-para-reduzir-gastos-e-emissoes-de-co2/>

出所：CNI

ブラジル銀行の経済評価レポート

ブラジル銀行は、ブラジル経済と世界経済の現状に関するレポート「マーケットアップデート」を発表しました。4月のレポートでは、クレジット分野の環境改善のために12程度の施策を打ち出すと語ったフェルナンド・アダジ財務相の発言が大きく取り上げられています。これらの施策の中には、大規模なインフラ投資である官民パートナーシップ事業（PPP）の推進や所得税が課されない債券なども含まれます。

詳細はこちら：https://www.bb.com.br/docs/portal/japao/MarketUpdate20230406.pdf?fbclid=IwAR39-jyqdxG-U7t5nmIXIX2ykh-w0ol_WBbl9seAUflvD5CrJCDQE2qLh-c

出所：ブラジル銀行